

# パブリックコメントの結果概要

- ・実施期間：2022年11月8日～12月7日（30日間）
- ・意見総数：6件（個人、団体に関わらず1件とカウント）

## ＜主なご意見の概要＞

- 今後の開発に関する具体的な作業計画が提示されたことは重要なポイントであり、**大いに評価できる**。
- 高速炉の開発は、時期を待って進めるべきものではなく、可能な限り早く、研究開発はもとよりプラントの設計、建設、運転を通じた**技術実証を推進すべき**である。
- 司令塔組織で、研究開発全体統括だけでなく、実証炉建設に関わる相当踏み込んだ準備検討に取り組み、**実証炉事業に臨むことを期待**したい。
- 実用高速炉について、中長期の導入シナリオ又は実用化シナリオ策定の必要性を補足的に明示し、**2050年以降の展望を国民に分かりやすく示したらどうか**。
- 立地や体制整備など記載のある多くの難しい課題をクリアする必要がある、**今後30年弱の期間での実現に、時間的余裕はあまりないのではないか**。
- 各プレイヤーの役割で、日本原子力研究開発機構については、まず「常陽」の再稼働が必要。高速炉開発の残された貴重な実践の場としての**「常陽」の位置づけをもっと鮮明にすべき**である。
- 2050年を見据えた**専門人材が、サイクル技術を含めた各主要分野でどの程度に減少するのか**、このままでいいのか、分析・評価が必要。
- サプライチェーンは元には戻らない壊滅的な状況。**既にサプライチェーンに脆弱性が出ているとの認識は相当楽観的**。
- 維持等のためにも研究を行う事についてはそう否定的ではないのであるが、しかし**原子力発電についてはもう中止を行うべき**と考える。
- **用語の統一が図られていない**ので適正化を検討して頂きたい。